

# 「子育て支援事業」で、 地域の子育てに貢献

心理学を学ぶ学生たちが  
地域の子育てを支援

神戸学院大学では、地域と連携した「子育て支援事業」を、人文学部人間心理学科・発達心理学領域の学部生と人間文化化学研究所・臨床心理学系の大学院生が実習を兼ねて実施し、高い評価を受けています。地域の親子がさまざまな遊びなどで楽しい時間を過ごしているのが、大学授業日の毎週水曜日に実施する「子育てサロン（有

瀬キャンパス・行動観察室にて開催）。学部生と大学院生が、子どもたちの年齢や季節などに合わせた約2時間のプログラムを企画し運営しています。「前期と後期に分けて参加希望の親子を募集していますが、常に満員状態です」と、この事業に関わる前田志壽代准教授は話します。

毎月第3金曜日に行われている「母と子のアトで遊ぼう（有瀬キャンパス・プレールームにて開催）」も好評で「芸術療法を専門とする教員が中心となり、大学院生がサポートし親子一緒に絵を描いたり手芸品を作ったりして、楽しんでいただいています」。このほか、近隣の保育園を学部生が実習授業として訪問し、園児たちと遊んだり、絵本の読み聞かせを行うなどの活動も活発に実施。



前田 志壽代  
Shizuyo Maeda  
人文学部准教授

「学生たちは子どもが大好きで、一生懸命に子どもたちの相

手をしていきます」



臨床心理士を目指す大学院生が制作した、児童虐待防止を啓発する冊子とDVD。冊子では虐待とは何かや、虐待のサイン、相談件数の推移などを紹介。動物キャラクターで優しく表現するなどの配慮もした

子どもの手助けをするため  
臨床心理士に

前田准教授の主なテーマの一つは「生涯発達心理学」。従来の発達心理学は、主に青年期までの変化を扱う学問分野でしたが「生涯発達心理学は、人間の受胎から老衰死に至るまでの、生涯にわたる心身の発達過程を研究するものです」。かつては大阪市立総合医療センター（旧・大阪市立小児保健センター）に、臨床心理士・精神保健福祉士として勤務し、主に子どもを対象とした心理検査や心理療法に携わっていた前田准教授。心理学に興味を持ったきっかけは、「洋画好きの両親に、よく映

画館に連れていってもらいました。『禁じられた遊び』というフランス映画（1952年公開）を見た時、主人公の幼い男の子と女の子が、周りの大人たちの心ない言動に傷つく場面が強く印象に残り、私は将来、子どもを理解し味方になれる仕事をしたかった」と。

継続的に関わっていける  
子育て支援のシステムを

子どもの心の問題の急増を実感し続けていた前田准教授だけに、子育て支援事業に対する思い入れは強く「2012年に実施された本学・文部科学省共催の『熟議』では、行政・地域施設・一般市民の方たちと議論し、地域のニーズや今後のあるべき姿を探りました。そして本学の立地する有瀬地域は、就学前年齢の子どもが多いにもかかわらず、子育て支援の専門家が少ない、私たちが実施してきたような子育て支援事業が不可欠だと実感できました」。

また子育て支援に関わることで学生たちは、子どもと触れ合うことの喜びを再認識すると同時に、子どもたちの成長の早さに驚き、子育て環境の大切さも痛感しているといいます。「子育て支援事業は地域に役立つだけでなく、学生にとっては絶対の学びの機会でもあると考えています」

夢へのチャレンジが、未来を創る

神戸学院大学

グローバル・  
コミュニケーション学部  
2015年4月開設（設置構想中）

学びの舞台は  
ポートアイランド  
キャンパス

●有瀬キャンパス ●ポートアイランドキャンパス ●長田キャンパス（法科大学院）  
神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL:078(974)1551(代) www.kobegakuin.ac.jp/